



日本実験動物技術者協会 東海支部会報

2008 年 2 号 (通算 31 号)

目次

1. 開催のご案内

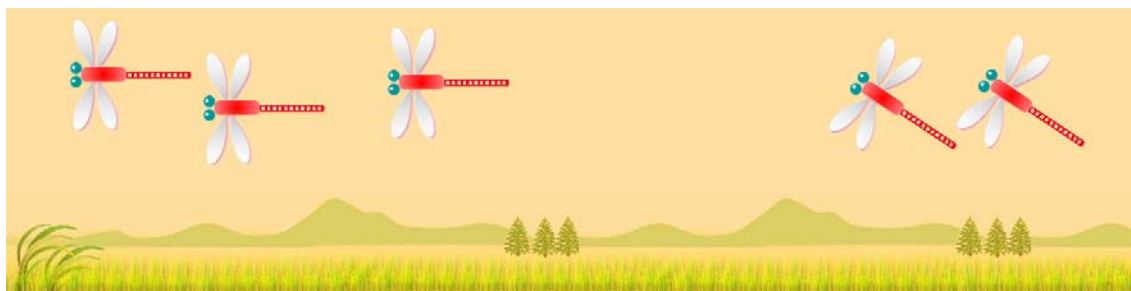
- (1) 平成20年度実験動物実技講習会・・・・・・・・・・ 2
- (2) 藤田保健衛生大学における大和田先生の講演会について・・・・ 2

2. 報告事項

- (1) 平成20年度 第1回役員会・・・・・・・・・・ 3
- (2) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技 (第1回)』・・・・ 4
- 受講者からの感想文・・・・・・・・・・ 5

3. その他

- (1) 支部備品移動・・・・・・・・・・ 1 1
- (2) 年会費について・・・・・・・・・・ 1 1
- (3) HPのサーバー移行について・・・・・・・・・・ 1 1



1. 開催のご案内

(1) 平成 20 年度実験動物実技講習会

日時：10 月 26 日（日） 9:30～17:00

（受付：9:00～9:30）

会場：名古屋市立大学（川澄キャンパス）

医学研究科 研究棟 2 階臨床セミナー室

名古屋市営地下鉄桜通線 桜山下車すぐ

講師：日本エス・エル・シー株式会社 藤田 芳顕先生

定員：10 名（先着順）

会費：会員 5,000 円 非会員 6,500 円

小動物を用いた実技を中心とした講習会です。基本的な手技を取得したい方、2 級試験受験前の再確認をしたい方など奮ってご参加ください。申し込みは同封の申し込み用紙に必要事項を記入し支部事務局まで郵送または FAX にてお申し込みください。E-mail (mailto:jaeat-tokai.org) でも受け付けます。

申込締切は 10 月 22 日（水）（必着）です。なお、締め切り日前でも定員に達した場合は申込みを締め切らせていただきます。不明な点は支部事務局までお問い合わせください。

(2) 藤田保健衛生大学疾患モデル教育研究センター講演会

（東海支部後援）

藤田保健衛生大学疾患モデル教育研究センター講演会では、日本実験動物学会において本演題のシンポジウムの座長を務められた独立法人・産業技術総合研究所ライフサイエンス実験管理センターセンター長 大和田一雄先生をお招きして、「基本指針に基づく動物実験 一機関内規程の運用と自己点検を中心にー」について講演をしていただきます。大学および研究所の動物実験教育研究施設における機関内規定の運用と自己点検について講演していただき、質疑応答によってより深くご教示していただく予定です。

支部も後援しておりますので、この機会に多方面から皆様多数ご参加くださると幸いです。

日 時：平成 20 年 10 月 21 日（火）17 時 00 分～18 時 30 分
場 所：藤田保健衛生大学病院 外来棟 4 階 402 号室
演 題：基本指針に基づく動物実験
－機関内規程の運用と自己点検を中心に－
講 師：大和田 一雄 先生

＊ 参加ご希望の方は、下記までお問い合わせください。

問合せ先：日本実験動物技術者協会東海支部事務局（庶務担当）
藤田保健衛生大学疾患モデル教育研究センター
羽根田 千江美 宛
E-mail emmie@fujita-hu.ac.jp
TEL： 0562-93-2447



2. 報告事項

（1）平成 20 年度 第 1 回役員会

日時：平成 20 年 8 月 9 日（土） 14:00～19:00
場所：藤田保健衛生大学 医学部 502 会議室
議題：「実験動物と動物実験 基本的動物実験手技」講習会について
実験動物実技講習会（2 級試験対策）について
技術交流会について
次年度役員選挙について
その他

(2)『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技 (第1回)』

下記の日程で実技講習会が実施され、12名の方に参加いただきました。

日程： 平成20年8月23日(土)～8月24日(日) 2日間
23日(土) 13:00～17:10
24日(日) 9:00～17:00 (終日)

会場： 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
藤田保健衛生大学

講師： 藤田保健衛生大学

疾患モデル動物学 名誉教授

高橋 久英 先生

藤田保健衛生大学 生命倫理学 准教授

佐藤 労 先生

実技指導員： 藤田保健衛生大学

疾患モデル教育研究センター准教授

長尾枝澄香 先生

日本エス・エル・シー株式会社

野崎 祐次 先生

講習内容：

1) 動物を対象とする実験の倫理

佐藤 労 先生

2) 実験動物と動物実験の必要性

高橋 久英 先生

実技講習

3) マウス・ラットの取り扱い

4) マウス・ラットの保定と個体識別

5) マウス・ラット麻酔、投与、採血、採尿等の実験手技

6) マウス・ラットの解剖、臓器摘出方法、安楽死法



【参加者からの感想文】

参加された方から、講習会の感想をいただきました。

東海支部主催 「基本的動物実験手技講習会」に参加して

(株)オリエンタルバイオサービス南山城研究所
吉岡 優子

2008年8月23日、24日の2日間にわたり、日本実験動物技術者協会 東海支部主催の「基本的動物実験手技講習会」に参加する機会をいただきました。

1日目の座学、2日目の実技まで本当に内容の濃い充実した2日間でした。座学では動愛法の改定以来見直されている倫理面から藤田保健衛生大学・佐藤芳先生が、実験動物とその必要性については藤田保健衛生大学名誉教授・高橋久英先生が講義下さいました。高橋先生のお話の様に、動物実験には常に大なり小なり技術者の罪悪感が背中合わせにあります。佐藤先生の「人間の生命維持のために肉食することと同様に」「動物の苦痛や命をいただき、実験者は知識や技能を手に入れ、人類の生命の改善に寄与できると世間に胸を張っていえるような気構えを持つこと」は、それらを抱える技術者に対する大きなエールのように感じられました。また、お二人からは3Rをしっかりと守った上での実験の実施がいかに重要であるかも改めてご指導いただきました。

2日目の実技講習では、マウス・ラットの取り扱いに始まり、保定・投与・採血・麻酔方法・臓器摘出方法・安楽死方法等を簡潔に的確にご指導いただきました。保定ひとつで動物に与えるストレスの大きさが異なることなどを改めて体感しました。更には出席した参加者の中から採血方法などで教科書ではあまり目にしない技術が飛び出し、参加者・先生方入り混じっての賑やかで熱い講習会となりました。

弊社では技術の基本について現在見直し作業を進めております。その基準を教えていただければ、と今回参加いたしました。考えていた以上の大きな収穫を得ることができました。動物愛護の精神からも、技術者の技術の向上は絶対必要な事と日頃感じています。技術者個人の向上の努力はもちろん必要ですが、技術者間での日頃の手技等の情報・技術の研鑽の場がいかに有効かも今回の講習会で実感しました。今後このような機会がありましたらぜひ参加したいと思えます。

最後になりましたが、この様な機会を下さった小木曾東海支部長を始めスタッフの皆様にご心から感謝いたします。ありがとうございました。

『実験動物と動物実験基本的動物実験手技講習』に参加して

(株)オリエンタル バイオサービス 南山城研究所

片山 万貴

8月23日～24日の2日間、基本的動物実験手技講習会に参加する機会を得ました。私自身今回の講習会に参加して、多くの発見・確認が出来ました。座学は新たな切り口での講義テーマがあり、動物を対象とする実験の倫理(藤田保健衛生大学・佐藤芳先生)の講義が印象に残りました。哲学からの視点で、人間の病気への対する改善と使用する動物への罪悪感は、常に考えさせられる問題でした。今まで私は人類貢献と動物への罪悪感は、どちらも正論なところがあり、なかなか答えは出ないと思っておりました。3R 理念と技術者の精度がこれから先には必要だと感じ、また多角的な視点で見つめ直す機会と感じました。

私自身16年実験動物に携わり、今まで習得した手技の整合性(我流ではないか?)を確認する意味でも、新たな注意点やコツが習得出来た点でも、2日目の実技講習の参加は大きな収穫となりました。動物へのストレス軽減(保定・投与・飼育作業及び環境)も精度向上の重要なファクターであることも知り、今まで以上に動物への接し方を考えさせられました。採血や投与方法についても新たな方法を説明していただき、熱の入ったディスカッションもあり、参加者の動物への配慮や努力を感じさせられました。

技術の向上は自身では解決出来ない事もあり、改めて講習会の意義を感じました。今後もこのような講習会があれば参加したいと思い、未経験者以外にも経験者の再確認の場であってほしいです。

最後になりましたが、小木曾東海支部長を始め東海支部の皆様、施設を提供していただきました藤田保健衛生大学の方々に感謝致します。



懇親会の様子

「第1回 実験動物と動物実験 基本的動物実験手技」を受講して

日本農薬株式会社 総合研究所 安全性・医薬ユニット 毒性・薬理グループ

平川 聡子

東海支部主催の「実験動物と動物実験 基本的動物実験手技」に参加させて頂きありがとうございました。東海支部の役員の皆様におかれましては、多忙な業務の中、いろいろご準備してくださり、本当にありがとうございました。

佐藤先生の倫理の講義は、普段は目の当たりにすることのない哲学の世界をわかり易い言葉で講義して頂いたので、気持ちよく受け入れることができました。講義の中で「動物の苦痛や命を『いただいて』、実験者は知識や技能を手に入れ、人類の生命の改善に寄与できると、世間に胸を張って言えるような気構えで」とおっしゃられたことに、私が実験初心者の頃、どうしても上手く動物が扱えず、採血やサンプリングで先輩達の技術に追いつけなかった時期に「この子達（マウスやラット）の命をもらって、実験するのだから、ちゃんとしたデータが取れるようしっかり実験しよう！」と自分自身を叱咤し、保定、投与、採血やサンプリングの練習をしていたことが思い出され、涙が出そうになりました。

高橋先生の講義も先生の巧みな話術に引き込まれ、楽しく聴講することができました。先生が創り出された「小人症マウス」に日頃のストレスを癒されたと思ったのは、私だけではなかったはずです。

今回の実技講習は、マウス・ラットの実験手技の基本ということでしたので、若干の余裕を胸に秘めながらの参加でありましたが、いざ実習本番となると、社内では普通に行える投与や採血手技もドキドキハラハラ、「本当にこれでいい？」「どうしよう・・・」「えー??？」と、心の中で独り言三昧でした。もしかしたら、言葉（悲鳴）を発していたかも知れません。講習会に参加することにより、「これでいいだろう、こんなもんだろう」と普段どおりの手技を行っても、何かしら基本的なポイントが抜けていたり、他社の受講者とは違ったりと、改めて自分の持っている技術を見直すことができました。また、いろいろな技術保持者の方々と知り合いになることができたことも良かったと思います。

手技に得手、不得手はあっても、END POINT はないと私は確信しています。「井の中の蛙、大海を知らず」にならないよう、これからも各種講習会に積極的に参加し、技術の向上に励みたいと思っています。良い機会を与えて頂き、ありがとうございました。



実技実習の様子

第1回基本的動物実験手技講習会に参加して

クミアイ化学工業株式会社
京谷 恭弘

私は2008年8月23、24日の2日間にわたり日本実験動物技術者協会東海支部主催の第1回基本的動物実験手技講習会に参加した。動物実験に携わるようになってまだ1年半程であり、このような講習会への参加は初めてであったが、普段の業務では忘れがちになってしまう動物実験の基礎や実験動物倫理について再確認することができた。まさにこれらは動物実験技術向上のための土台となるものであり、これらの土台無くして技術の向上はあり得ない事を講義と実技講習から実感した。

そして、今回の講習会で私が最も有意義に感じたのは、懇親会と実技講習における他の技術者との情報交換であった。懇親会では講師の先生を始め他の技術者と親睦を深め、同時にお互いの技術の情報交換を行うことができ、技術講習会ではその技術を実際に見ることができた。これらは、ただ技術を教えるだけではない、今回のような交流型の講習会ならではの長所ではないかと感じた。また、2日間にわたり行った事もより親睦を深める結果となり、2日目の技術講習会では積極的な情報交換をすることができた。

このような技術講習会では動物実験の基礎的な技術を学べることはもちろんであるが、それ以上に技術交流という点で大きなメリットを持っていると思われる。また、他の研究機関ならびに講師やスタッフの技術力の高さを目の当たりにする事によって、自身の技術向上への刺激となることも、このような技術講習会の良さであると実感した。今回初めての技術講習会であったが、大きな充実感を得ることができた。これは講習会の内容のみならず、東海支部幹部の方々の行き届いたご配慮も大きな要因となったことを付け加えておきたい。

基本的動物実験手技（第1回）講習会を受講して

三協ラボサービス株式会社
片山 雅文

飼育管理業務を日々行う私にとって、マウス・ラットの実験手技の講習会は待望したものであり、大阪から参加させていただきました。

1日目の講義は、実験動物技術者の心構えとして倫理学、育種学から動物福祉を考慮し動物実験を行う重要性を説き、それはまた動物実験が量から質の時代

になり、動物実験技術の必要性を示唆した、動物実験技術者にエールを送る温かいものでありました。

2日目の実技講習は、講師のデモンストレーションと説明が、とても丁寧で分かりやすいものでした。日々行っている作業としての手技も、初心に帰って見直すことができ、また普段行わない技術を見せていただき、その体験が出来ました。それらは後進者への指導にも大変参考になると思いました。(チャウチャウ犬等使わせていただきます。) 実習では講師の先生や役員の方々にほぼマンツーマンで熱意ある指導いただきました。

最後になりましたが、講義の講師の先生、長時間実習指導していただいた講師の先生、また役員の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

「基本的動物実験手技講習会」に参加して

Research Institute of Molecular Pathology
和田 春英

「実験動物技術者試験」を「マウス・ラット」で受験する前に、基礎から教えていただきたかったので、受講しました。特に、ラットの取り扱いは、初心者だった為、触る前はとても緊張していましたが、取り扱いのコツ等を聞き、安心して触ることができましたし、最終的には基本的手技を一通り終えることが出来ました。

講師の方々に丁寧に教えていただき、かつ、写真付の見やすいテキストもあった為、未熟な私にとりましてはとてもありがたかったです。

ただ、もう少し欲を言うと、実技練習に、1.5日ないしは、2日ほしかつたのと、受講者間でテクニックのレベルの差があった様に思うので、レベルに応じて、2-3のグループ分けがあっても良かったのではないかと思います。

全体的には、私にとりましては、実り多い実技講習でしたし、主催者及び受講者間の情報交換もできたので、とても良かったと思います。この実技講習を受講出来て、大変満足をしております。色々と有難うございました。



私は普段ウサギを用いた実験が中心の業務を行っています。マウスも就業してから1, 2回実験に関わっていますが、頻度が少ないために実習をする機会が少なく、実験データを得るまでの技術を習得できていない状態です。今回、マウス・ラットの実験手技ということで受講させていただきました。

1日目の講義について、一番大事だと思っていた、倫理などの動物実験を行うための心構えを受講することができて、とても貴重だと思いました。動物実験は人間の反転のために必要であり、誇りを持って業務を遂行していくという精神的な自身をいただけたと思います。それを理系ではない学問の先生に主張していただくのはとても心強いです。本来なら実務に就く前に学んだ方が良いでしょうと思いますが、この機会に話を聞くことができてよかったです。宗教の話などを交えてお話されましたが、動物実験に関わる人というのも一つの倫理を持った宗教団体かもしれません。

それから、動物の育種についても興味深く聞かせていただきました。疾患モデルマウスが、足の速い馬同士を掛け合わせてより速い馬をつくるように比較的原始的な理論に基づいて生産されていることに意外性を感じました。動物実験を行うには実験動物を生産する方々を始め、実にたくさんの人の協力が必要であることを改めて感じました。

2日目の実習についてはデモンストレーションをして下さった野崎先生を始め、初心者でも分かりやすく丁寧に教えていただきました。今回は初心者向けの講習会というイメージで受講しましたが、かなり熟練した受講生もいらっしやったので、毎日動物実験をなさっているような方々のお話を聞いたり、動物を見ながら細かいポイントを伺うこともできました。また、他の受講生や先生方の普段の働いている環境を伺うことができたりして交流ができたこともとても貴重でした。受講生によって、技術の習得ペースが異なるのですが、フレキシブルなスケジュールだったのが良かったと思います。私（ほとんど初心者であるとみなして）は基本的な操作はできるようになったと思いますし、普段動物を扱い慣れている方は基本操作を整理し、研究所による細かい違いを確認したり、より上級の試験や処置方法についての議論が行われ、動物を見ながらの情報交換がされていたようで、とても良い講習会になったと思います。

このような機会にまた参加して、時々情報交換をし、技術の向上に努めたいと思います。

ありがとうございました。

3. その他

(1) 支部備品移動

以下の備品についてエーザイ（株）より藤田保健衛生大学に移動しました。
ノートパソコン TOSHIBA dynabook TX/960LS
デジタルカメラ IXY DIGITAL 450
液晶プロジェクタ

(2) 年会費について

本協会は会員の皆様の会費により運営されています。本年度の会費が未納の方は至急お振込みをお願いいたします。

年会費：6,000 円

振込先 名 称：日本実験動物技術者協会
口 座：00130-9-102291
取扱機関：落合郵便局

(3) HP のサーバー移行について

支部HPは、Infoseek の無料HPスペースを利用して運用されていましたが、このたびオリジナルドメインの取得およびHPをより充実させるためにサーバーを移行しました。新しいHPのURLは、
HP：<http://www.jaeat-tokai.org> です。



Japanese Association for Experimental Animal Technologists TOUKAI-branch

<東海支部事務局>

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
エーザイ(株)安全性研究所川島研究室内（担当：森 郁夫）
TEL：0586-89-4722 FAX：0586-89-5482
e-mail：mailto:mailtokai@jaeat-tokai.org
HP：<http://www.jaeat-tokai.org>

2008 年 10 月 No. 31 発行者：小木曾 昇
発行所：日本実験動物技術者協会東海支部